飛鳥時代

名前

問1　7世紀後半に起こった「壬申の乱」の経緯とその結果について述べた文として、正しいものはどれか。名称や関係性に注目して選びなさい。
（2024年 高知県公立入試 類似）

1. 桓武天皇が新しい政治を行うため、都を平城京から平安京へと移した。
2. 聖徳太子が推古天皇の摂政となり、憲法十七条や冠位十二階を制定した。
3. 天智天皇の弟である大海人皇子が、天智天皇の子である大友皇子を破って即位した。
4. 中臣鎌足が中大兄皇子と協力して蘇我氏を倒し、大化の改新を開始した。

問2　飛鳥時代の出来事をまとめた年表において、遣隋使の派遣と同時期の国内体制の整備として位置づけられる法があります。聖徳太子（厩戸王）が役人の心得を示すために制定し、天皇を中心とした国づくりの基礎となったものを何といいますか。（2020年 大分県公立入試 類似）

1. 十七条の憲法
2. 五箇条の御誓文
3. 御成敗式目
4. 大宝律令

問3　7世紀前半、聖徳太子（厩戸王）らが中心となって推進した、日本で最初の本格的な仏教文化を何というか。（2018年 大分県公立入試 類似）

1. 飛鳥文化
2. 弘仁・貞観文化
3. 天平文化
4. 国風文化

問4　聖徳太子が定めた冠位十二階について、この制度が目指した内容を説明したものとして正しいものを選びなさい。（2022年 高知県公立入試 類似）

1. 全ての国民を戸籍に登録し、口分田を割り当てるための基準とした。
2. 個人の能力や功績に応じて、色の異なる冠を授けて役人の位を区別した。
3. 地方の豪族を「国司」として任命し、土地と人民を直接支配させた。
4. 一度授けられた位は子孫に受け継がれることを原則とした。

問5　日本の歴史における主な出来事を時系列順に整理したとき、7世紀中頃に中大兄皇子らが中心となって進めた、天皇中心の国づくりを目指す一連の政治改革にあたるものはどれか。（2022年 青森県公立入試 類似）

1. 大化の改新
2. 聖徳太子の政治
3. 桓武天皇の平安京遷都
4. 聖武天皇の仏教政策

問6　天武天皇から持統天皇の時期にかけて進められた、天皇中心の政治体制を整えるための具体的な記述として最も適切なものはどれですか。
（2022年 福岡県公立入試 類似）

1. 飛鳥浄御原令の編纂や、日本という国号、天皇という称号の使用を定めた。
2. 平安京へ遷都を行い、新しい仏教勢力と結びついて律令政治の立て直しを図った。
3. 仏教の力で国家を守るため、全国に国分寺や国分尼寺を建立することを命じた。
4. 冠位十二階を定めて家柄にとらわれず才能のある人物を登用し、憲法十七条を作成した。

問7　かつての都であった藤原京の跡地からは、多くの木簡が発見されています。その中には、現在の長野県にあたる地域から特産物が都まで運ばれたことを記したものがあり、地方まで中央の支配が及んでいたことが分かります。このような統治体制を確立させる契機となった出来事として、最も適切なものはどれですか。（2020年 愛知県公立入試 類似）

1. 東大寺に大仏が造立されたことで、仏教の力によって地方の反乱を鎮める仕組みができた。
2. 墾田永年私財法が出されたことで、地方の有力者が独自に土地を開発し、都に献上する流れが加速した。
3. 大宝律令が制定され、全国を国・郡・里に分けて役人を派遣する律令国家の体制が整った。
4. 冠位十二階の制度が整えられ、家柄にこだわらず才能のある人物を地方の役人に登用した。

問8　645年に起こった政治改革において、中臣鎌足（藤原鎌足）らとともに、権勢を振るっていた蘇我氏を倒し、後に天智天皇として即位した人物は誰ですか。（2023年 沖縄県公立入試 類似）

1. 中大兄皇子
2. 聖徳太子
3. 大海人皇子
4. 足利尊氏

問9　飛鳥時代、聖徳太子（厩戸王）によって制定された「憲法十七条」の主な目的として、当時の政治状況から考えて最も適切な説明はどれですか。（2020年 奈良県公立入試 類似）

1. 役人が政治を行う上での道徳的な心がまえを示し、天皇を中心とする国家体制を整えるため
2. 地方の豪族が所有する土地と人民をすべて天皇に返還させ、公地公民制を確立するため
3. 僧侶に対して厳しい修行を義務付け、仏教の教義を統一して寺院を管理するため
4. 民衆に対して重い税を課すための根拠を示し、国の財政を安定させるため

問10　7世紀半ば、朝鮮半島では新羅が唐と結んで勢力を広げ、百済を滅ぼしました。これを受けて、当時の日本（倭国）がとった行動とその結果として正しいものはどれですか。（2015年 佐賀県公立入試 類似）

1. 元（モンゴル帝国）の侵攻を阻止するために朝鮮半島へ出兵したが、文永の役で大敗を喫した。
2. 百済の再興を支援するために朝鮮半島へ大軍を送ったが、白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に大敗した。
3. 唐と結んで朝鮮半島での権益を確保しようとしたが、白村江の戦いで新羅の軍勢に敗北した。
4. 高句麗の再興を支援するために朝鮮半島へ大軍を送ったが、白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に大敗した。

問11　7世紀前半、聖徳太子（厩戸王）が推古天皇を助けて政治を行っていた時期に、中国大陸や朝鮮半島の強い影響を受けて成立した、日本最古の仏教文化を何と呼びますか。（2019年 滋賀県公立入試 類似）

1. 飛鳥文化
2. 白鳳文化
3. 国風文化
4. 天平文化

問12　飛鳥時代、聖徳太子（厩戸王）が推古天皇の摂政として政治を行っていた時期に定められた「冠位十二階」の制度について、その目的を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2019年 長崎県公立入試 類似）

1. 戸籍を作成して人々に土地を割り当て、税の徴収を確実にするため
2. 家柄にとらわれず、能力や功績のある人物を役人に登用するため
3. 有力な豪族に対し、代々特定の役職に就く特権を認めるため
4. 仏教の教えを政治の基本とし、国全体の道徳を高めるため

問13　天智天皇が白村江の戦いでの敗北後に進めた、国家体制を整えるための改革において、670年に作成された日本初の全国的な戸籍の名称として正しいものを選びなさい。（2026年 埼玉県公立入試 類似）

1. 庚午年籍
2. 班田収授法
3. 庚寅年籍
4. 大宝律令

問14　7世紀の日本は、聖徳太子の政治や大化の改新（645年～）など、国家の仕組みが大きく変化した飛鳥時代にあたります。この時期に天皇を中心とする中央集権国家の建設が急がれた背景として、最も適切な説明を選びなさい。（2020年 神奈川県公立入試 類似）

1. 地方の武士が力を持ち始めたため、その反乱を抑えるための軍事力を整備したかったから
2. キリスト教の伝来による文化的な混乱を鎮め、仏教を中心とした国づくりを目指したから
3. 唐や新羅といった強大な外国の脅威に対抗するため、国内の統治体制を固める必要があったから
4. ヨーロッパ諸国との貿易を円滑に進めるために、港の整備と度量衡の統一が必要だったから

答え合わせ・解説

問1	答え 3 天智天皇の弟である大海人皇子が、天智天皇の子である大友皇子を破って即位した。	天智天皇の死後、後継者をめぐって弟の大海人皇子と子の大友皇子の間で武力衝突が起こりました。これが壬申の乱です。勝利した大海人皇子は天武天皇となり、地方の豪族を従えて中央集権化を強めました。選択肢にある大化の改新や、聖徳太子の政策、平安京への遷都は、それぞれ異なる時期や人物による出来事です。
問2	答え 1 十七条の憲法	聖徳太子（厩戸王）は604年にこの法を定めました。これは現代の憲法とは異なり、役人（官吏）が守るべき道徳や政治の心得を説いたものです。第一条の「和をもって貴しとなす」という言葉が有名であり、豪族たちの争いを鎮め、天皇に従う体制を整える目的がありました。
問3	答え 1 飛鳥文化	百済などの渡来人を通じて伝えられた仏教を基盤とし、法隆寺に代表される寺院建築や仏像制作が盛んになった時期の文化を指す。これは日本における仏教文化の原点であり、大陸や朝鮮半島の技術が色濃く反映されている。
問4	答え 2 個人の能力や功績に応じて、色の異なる冠を授けて役人の位を区別した。	冠位十二階は、役人に色のついた冠を与えることで、その序列を明確にした制度です。これは世襲制であった氏姓制度とは異なり、個人の功績を評価する仕組みであり、翌年に定められた「十七条の憲法」とともに、役人の規律を正し、中央集権体制を整える役割を果たしました。
問5	答え 1 大化の改新	645年に中大兄皇子（後の天智天皇）と中臣鎌足らが蘇我氏を倒した乙巳の変に始まり、唐の制度を取り入れて進められた一連の改革を指します。豪族が土地や人民を私有するそれまでの体制を改め、天皇を中心とする中央集権国家の建設を目指しました。
問6	答え 1 飛鳥浄御原令の編纂や、日本という国号、天皇という称号の使用を定めた。	壬申の乱の勝利後、天武天皇は独自の年号を定め、法体系である律令の整備（飛鳥浄御原令）に着手しました。また、中国に対して独立した立場を示す「日本」という国号や、統治者の称号としての「天皇」を本格的に使い始めたのもこの時期とされています。他の選択肢はそれぞれ聖武天皇、桓武天皇、聖徳太子の事績です。
問7	答え 3 大宝律令が制定され、全国を国・郡・里に分けて役人を派遣する律令国家の体制が整った。	藤原京は、大宝律令の制定前後における日本の首都であり、律令に基づいた計画的な都市造りが行われました。出土した木簡は、租・調・庸といった税制度を通じて、中央政府の権力が地方の隅々まで及んでいたことを示す実証的な資料となっています。
問8	答え 1 中大兄皇子	唐（中国）の制度に習い、天皇を中心とする中央集権国家の確立を目指して行われた改革が大化の改新です。中大兄皇子は蘇我入鹿らを排除することで、有力豪族による政治から、天皇が直接統治する仕組みへと転換を図りました。
問9	答え 1 役人が政治を行う上での道徳的な心がまえを示し、天皇を中心とする国家体制を整えるため	聖徳太子は、豪族同士の争いを鎮め、天皇を中心とした中央集権国家を築くことを目指しました。そのため、憲法十七条は一般の民衆に向けた法律ではなく、国に仕える役人（官吏）に対し、和の精神や仏教の尊重、そして天皇の命令への服従といった政治的な道徳を説いたものです。
問10	答え 2 百済の再興を支援するために朝鮮半島へ大軍を送ったが、白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に大敗した。	当時の朝鮮半島では、唐と新羅が連合して百済や高句麗を圧迫していました。660年に百済が滅亡すると、日本は古くから交流のあった百済の再興を助けるために朝鮮半島へ出兵しました。しかし、663年に錦江の河口付近（白村江）で行われた戦いにおいて、唐・新羅の連合軍に圧倒的な軍事力の差で敗れました。これにより、日本は朝鮮半島における拠点を完全に失うこととなりました。
問11	答え 1 飛鳥文化	聖徳太子が活躍した時期の文化は飛鳥文化と呼ばれます。大陸から伝わった仏教を国の政治に取り入れ、法隆寺などの寺院が建立されたことが特徴です。白鳳文化は7世紀後半、天平文化は8世紀（聖武天皇の時代）、国風文化は平安時代中期（藤原氏の全盛期）の文化であり、それぞれ特徴が異なります。
問12	答え 2 家柄にとらわれず、能力や功績のある人物を役人に登用するため	それまでの日本の政治では、特定の氏族が代々決まった役職を引き継ぐ「氏姓制度」が中心でしたが、聖徳太子は個人の実力を重視するこの制度を導入しました。これにより、天皇に従順で有能な人材を役人として集め、天皇中心の国づくりを進める狙いがありました。選択肢にある土地の割り当ては、後の「班田収授法」の内容です。
問13	答え 1 庚午年籍	天智天皇は、唐や新羅の連合軍が百済を滅ぼし、その後の白村江の戦いで日本軍を破ったことを受け、日本国内の統治を急ぎ強化しました。その具体的な施策として作成されたのが「庚午年籍」です。これにより、それまで氏姓制度によって豪族が支配していた人民を、国家が直接把握する仕組みが作られ始めました。選択肢にある「庚寅年籍」は持統天皇の時代に作成されたものであり、区別が必要です。
問14	答え 3 唐や新羅といった強大な外国の脅威に対抗するため、国内の統治体制を固める必要があったから	7世紀の日本は、大陸での唐の建国や、朝鮮半島での緊迫した情勢に直面していました。特に白村江の戦いでの敗北は大きな危機感をもたらし、いつ海外から侵攻されてもおかしくない状況下で、一刻も早く天皇に権力を集中させ、律令制度に基づく強固な国家体制（中央集権体制）を築くことが急務となりました。